

められる。

(2)は板敷き部に使用された薄い板材である。

木簡の釈読は、山形大学の三上喜孝氏のご教示による。

9 関係文献

秋田県教育委員会『龍門寺茶畑遺跡・向山遺跡』(二〇〇四年)

(高橋 学(秋田県弘田柵跡調査事務所))



(2)



(1)

東北文字資料研究会発行

『第一回 東北文字資料研究会資料集』の刊行

東北文字資料研究会は、東北地方の最新の文字資料について情報交換を進め、墨書土器などを中心とする出土文字資料の新しい研究方法を、文献史学・考古学の両面から議論するための研究会である。昨年十一月、第一回研究会を開催した。この資料集には、研究会当日の報告に関わる、三上喜孝・伊藤邦弘・廣瀬真理子・武田和宏の各氏の論考を掲載するほか、村木志伸氏の編集で、二〇〇一年度に刊行された東北地方の報告書から、出土文字資料を集成している。

(頒価二〇〇〇円(送料別) A4判 一六七頁)

問い合わせ先

東北文字資料研究会事務局

〒九九〇―二四二一 山形市上桜田二〇〇

東北芸術工科大学村木志伸研究室気付

TEL 〇三―六二七―二〇〇〇(内線二三三三)

FAX 〇三―六二七―二三五五